

## 第6章 農村環境計画の推進

### 1. 計画の実効性の確保

柏崎市農村環境計画は、現況の環境評価を行い、今後の農業・農村づくりの基本となる環境保全に対する目標や方針・方策等を示すものであり、具体的な整備・取組に関しては、それぞれの事業や地域の特性に合わせて対応する必要があります。

各事業の計画・実施にあたっては、「環境への対応方策」や「エリア区分・ゾーン区分」の設定状況を確認し、その事業やそれぞれの地域にふさわしい環境配慮の手法や環境保全対策などを検討したうえで実行します。

また、計画の実効性を高め、農村環境の保全・復元・改善をしていくためには、地域住民や農業従事者、事業者、行政などが一体で参画できる環境づくりが必要となります。そのためには、市民が農村環境の保全に興味や関心を高め、主体的に活動の参加を促進するように、ホームページや広報誌による周知を図り、目標や方針の達成状況などを公表することが必要です。

なお、シンポジウムやワークショップ、各種イベント、市民が参加できる話し合いの場を開催し、農村環境の保全に対する理解や意識の向上を図るとともに、農村環境を担う人材を確保し計画を推進します。

あわせて、目標や方針・方策の進捗状況を把握・検証するとともに、社会情勢や農業情勢の変化に対応し、必要に応じて本計画の変更や見直しを柔軟に行い、継続的な改善を進め、農村環境計画の実効性を確保します。

### 2. 計画の進め方

農村環境計画を効果的に進めていくためには、それぞれの事業の各段階の適切な時期に進行管理を行うことが必要です。進行管理は、「環境マネジメントシステム」の考え方に基づいて、下記のように「計画（Plan）」 「実施（Do）」 「評価（Check）」 「見直し（Action）」を繰り返し行います。

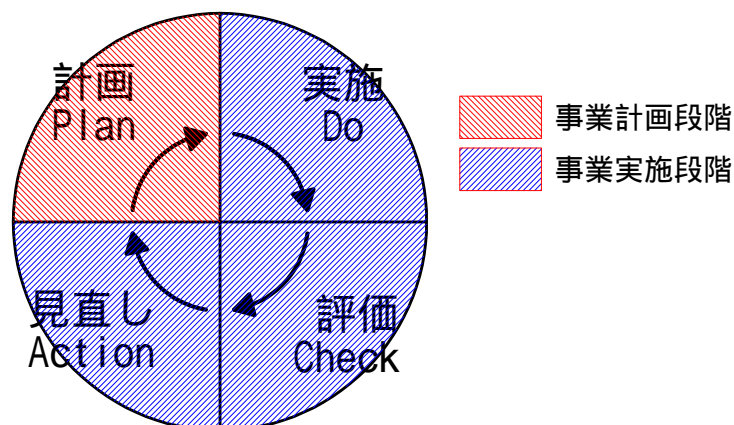


図 6-1 進行管理の基本概念

それぞれの事業の計画段階においては、基本計画や基本構想などの早い段階から農村環境計画との整合を図ることが必要です。ワークショップの開催や地元住民の意向を反映させ、工法や手法、今後の維持管理方法などの十分な検討を行い、保全計画を進めていきます。

## 3. 計画の推進体制の整備

今後の農業農村整備事業などの実施に際しては、農村環境計画を適切に反映させていくために農業従事者・都市や農村の地域住民・行政などによる協議・意見交換を十分に行うことが重要です。そのためには、「新しい農村の環境づくり」を柏崎市全体の問題として捉え、「環境保全に関するチェックリストの作成」などにより、客観的な視点で評価可能な体制づくりを整備することが必要となります。

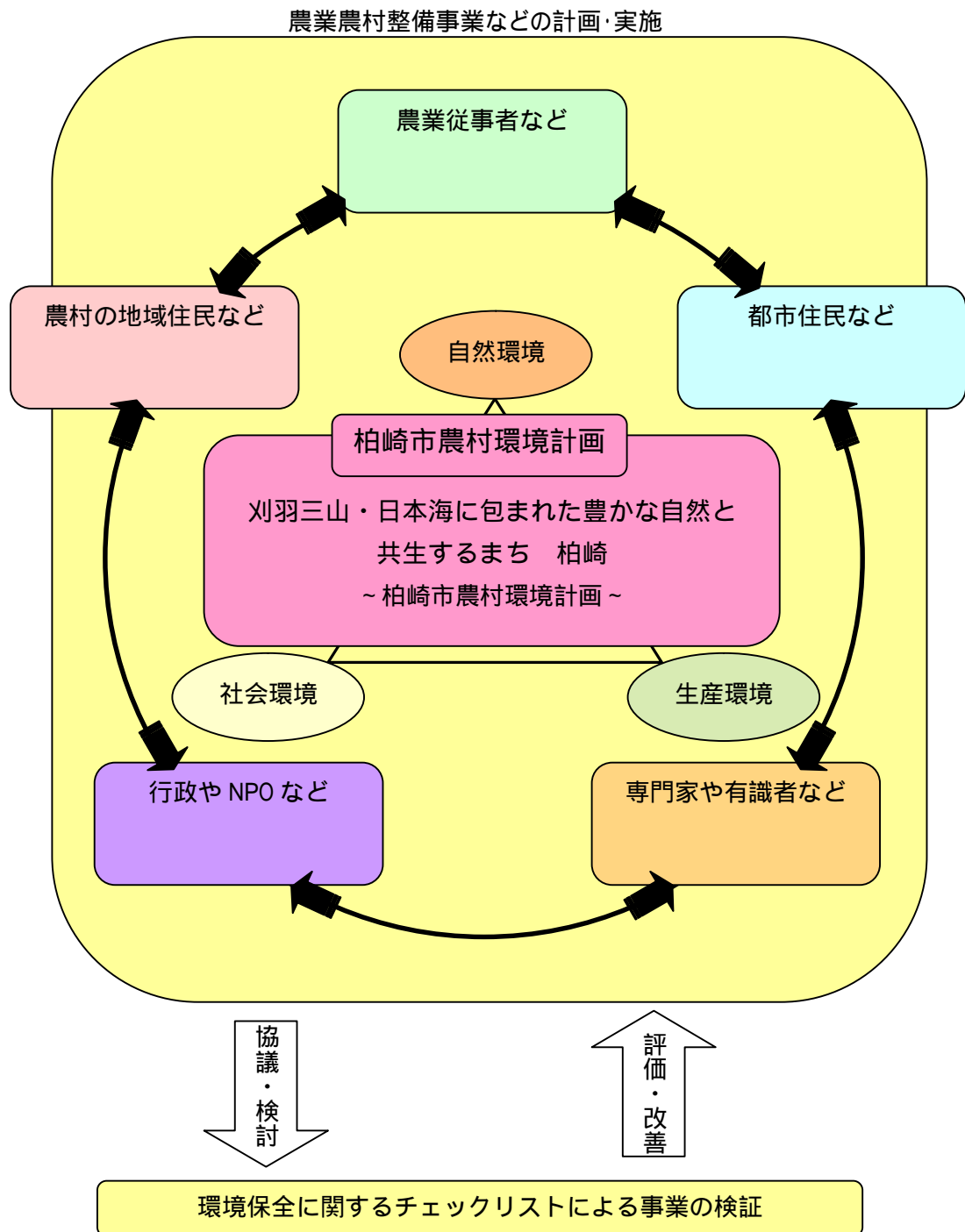


図 6-2 計画推進体制の基本概念

## 4. 今後の展開

柏崎市農村環境計画を踏まえて、公共事業を実施する際には、生産基盤の整備とともに、生物多様性の保全や良好な景観の形成などの環境保全、環境配慮の一層の充実を図る取り組みを推進します。また将来への取り組みとして、本計画を柏崎市の策定する次期上位計画や関連計画と調整することで「農村環境に配慮したまちづくり」を推進する必要があります。

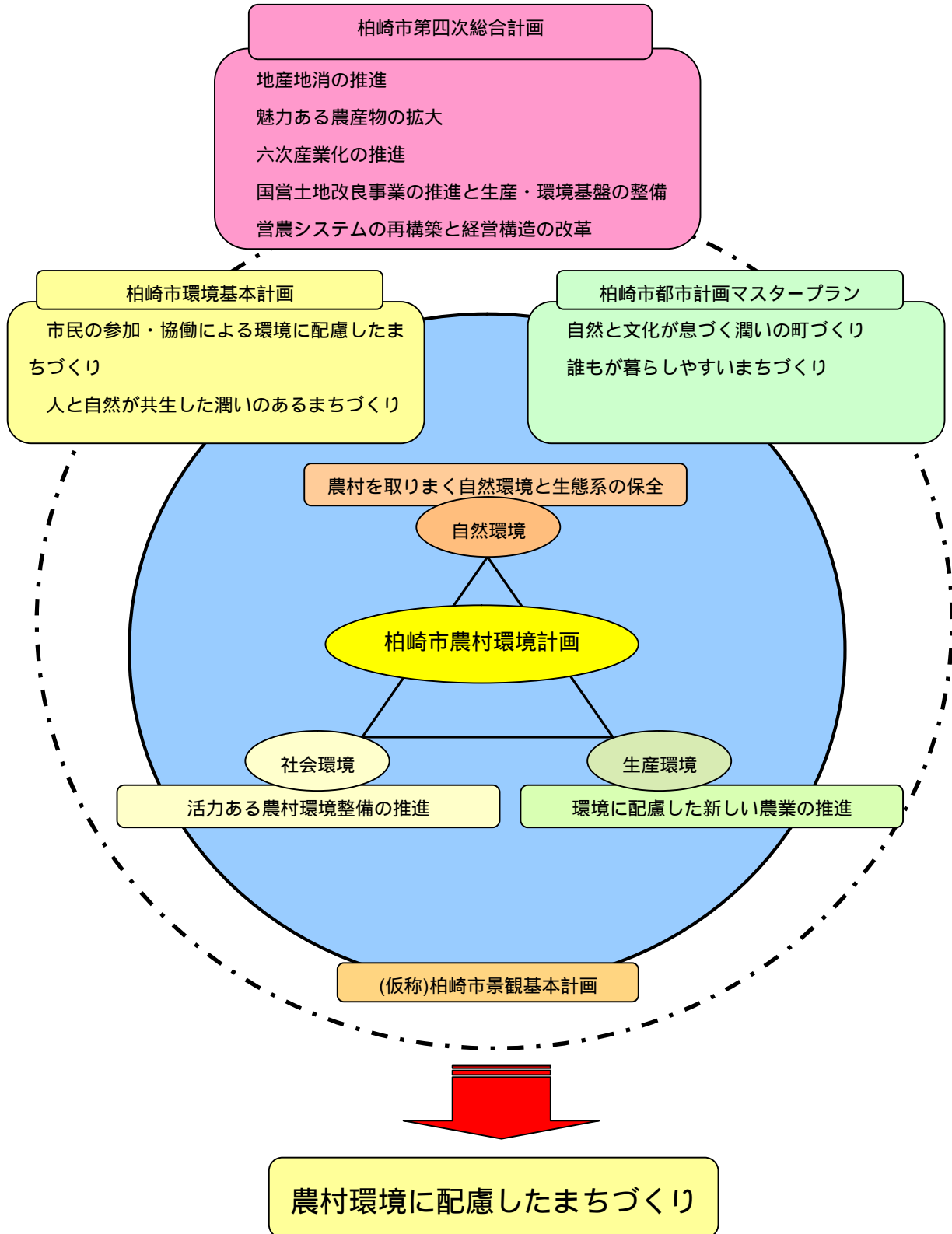


図6-3 今後の展開の基本概念